

奈良井宿かわらばん

奈良井宿観光案内所 0264(34)3160

鳥居峠物語

塩尻市奈良井と木曾郡木祖村の境に位置する「鳥居峠」は、古くは吉蘇路の峠坂、中世にはならい坂、藪原坂と呼ばれていました。標高1197m、峠山は1416mあり、旧中山道の難所として旅人を苦しめていました。

中世には尾張と信濃の境ということもあり、戦いが何度もありました。木曾義昌と武田勝頼(武田信玄の四男、甲斐武田氏最後の当主)の戦いで多くの兵士を埋葬したという、葬沢があります。

峠の名の由来は、木曾義元が御嶽山に戦勝を祈って峠に鳥居を建てて以来、「鳥居峠」と呼ばれるようになったといわれています。

また、この峠は奈良井川(日本海側)と木曾川(太平洋側)の中央分水嶺となっています。



写真:遊歩道石畳(奈良井側)

参考:フリー百科「ウイキベディア」

小説の舞台にも...

真田十勇士の1人猿飛佐助は、この峠の麓に住む鷲尾佐太夫という郷士の息子として生まれ、忍術の修行を積んだと戦前の「立川文庫」で紹介され、人気を得ました。この佐助を題材として、サスケなどとして、白土三平などの漫画により現在でも親しまれています。また、鳥居峠で茶屋を営んでいた市九郎とおろは、表の顔は夫婦であるが、その裏では人斬り強盗を生業とし、後に減罪のため現在の大分県にある青の洞門を開削したという小説、菊池寛の「恩讐の彼方に」の中にも描かれています。

現在、これらの舞台となっている峠は、信濃路自然遊歩道(昭和46年指定)として整備され、多くの人々が訪れています。